

日本遺産シンポジウムin黒潮町 カツオ文化日本遺産を目指して

カツオ文化日本遺産登録に向け、制度の概要や取組について理解を深めることを目的に、1月12日(土)、総合センターで「日本遺産シンポジウムin黒潮町 カツオ文化日本遺産を目指して」が開催されました。

同シンポジウムには、水産業に携わる人やそのほか町内外の関係者など約80人が参加しました。

文化庁審議官の杉浦久弘さんより「体験・体感・日本遺産」と題し基調講演が行われた後、トークセッションが行われました。

トークセッションでは、高知カツオ県民会議の活動や佐賀地区の漁協女性部による食育活動など、活発な議論が交わされました。



トークセッションの様子

第8回黒潮ふれあい交歓会

大方ライオンズクラブ主催「第8回黒潮ふれあい交歓会」が1月11日(金)、ネスト・ウエストガーデン土佐を会場に開かれ、町内外から約70人が参加しました。

同会は、異業種間の交流を深め、黒潮町をより活気のある町にしようと毎年1度開催されているものです。主催者を代表して同クラブの田淵治会長から話があった後、平和ポスター・ありがとうハガキの優秀作品の表彰などが行われました。

また、その後の講演では、大西町長から黒潮町版地域包括ケアシステムへの言及があり、「行政だけではなく、皆さんが力を合わせて助け合えるまちづくりを」と話がありました。



町長による講演を聞く出席者ら

初めて出席したという商工会青年部の谷憲人副部長は、「こういう交流の機会はとても良いと思っただ。若い人の参加も増えれば」と話しました。

海の狩人交流サッカー大会

インドネシアの漁業研修生同士がサッカーを通じて交流をする「海の狩人交流サッカー大会」が1月9日(水)、土佐西南大規模公園の人工芝グラウンドで開催されました。

同大会は、黒潮町で漁業の研修を受けるインドネシア人を対象に、「交流をきっかけに黒潮町をもっと好きになってもらいたい」という思いから企画されたもの。開会式では、役場海洋森林課長よりインドネシア語を交えたあいさつがあり、その後4チームに分かれ交流戦を行いました。

交流戦には、2、3年目の研修生約50人が参加し、普段は異なる漁船に乗っている者たちが声を掛け合いながら楽しみました。



サッカーで交流を深める研修生ら

研修3年目だというアリーさんは、「研修は大変だけれど、黒潮町は海が綺麗で好き。サッカーも楽しかった」と話しました。

「地域おこし協力隊」を紹介しします

1月15日付けで採用された地域おこし協力隊を紹介しします。



地域おこし協力隊
(ふるさと納税担当)
山本 誠

地域おこし協力隊として、ふるさと納税業務に携わることになりました山本と申します。地域おこしの一端に関わらせて頂けることが楽しみです。よろしくお願いたします。



地域おこし協力隊
(広報担当)
山本 祐佳

地域おこし協力隊として、大分県から移住して来ました山本祐佳です。広報担当として、黒潮町の魅力を発信・発信しながら、新天地での出会いを大切にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。